



## 《会計・税務の知識》融資の際に重要となる財務指標

### はじめに

会社が事業活動を行ううえで、銀行などの金融機関から融資を受けることは非常に重要となります。この融資を受ける際には事業計画書の作成など様々な書類を提出する必要がありますが、審査にあたっては、これまでの事業活動がどのように行われていたかということも大きいウェイトを占めます。それゆえ、決算書の提出が求められます。

そこで、本稿では、融資を受ける際にポイントとなる財務指標についての概説とこれら改善するポイントについて指摘していきたいと思えます。

### 1. 融資を受ける際にポイントとなる指標

#### (1) 自己資本比率

自己資本比率は、会社の安全性を見る指標です。自己資本比率が高い会社は借入金等にあまり頼らずに自社のお金で経営ができているといえ、内部留保の充実に努めてきた証にもなります。

一般的には次の式で算出されます。

$$\text{自己資本比率 (\%)} = \frac{\text{純資産}}{\text{総資本}} \times 100$$

#### (2) 当座比率

当座比率とは、短期的な債務の支払能力を示す指標です。当座資産とは、流動資産のうち換金性の高い資産をいいます。例えば、現金、預金、受取手形、売掛金、有価証券などが挙げられます。短期に返済しなければならない流動資産を直ちに返済する能力（当座資産）をどれくらい有しているかが分かります。一般的に当座比率が100%以上であることが望ましいとされています。一般的には次の式で算出されます。

$$\text{当座比率 (\%)} = \frac{\text{当座資産}}{\text{流動負債}} \times 100$$

#### (3) 債務償還年数

債務償還年数とは、有利子負債（短期借入金、長期借入金、社債）を、稼いだ現金預金によって何年で返済できるかを示す指標で、一般的に次の式で算出されます。

$$\text{債務償還年数 (年)} = \frac{\text{有利子負債}}{\text{営業キャッシュ・フロー}}$$

営業キャッシュ・フローとは、会社の本来の営業活動から得られた現金預金のことです。営業キャッシュ・フローを算出するにはキャッシュ・フロー計算書という計算書を作成しなければならないですが、簡便的に以下の算式でも求めることができます。

$$\text{営業C・F} = \text{経常利益} + \text{減価償却費} - \text{法人税等}$$

つまり、債務償還年数とは、有利子負債を会社の何年間の営業活動で得られる現金預金で返済できるかということを意味します。一般的に債務償還年数が10年以内であれば債務返済能力が高いと考えられています。

### 2. 財務指標の改善ポイント

以上紹介しました各財務指標は、項目を次のようにすることにより改善することができます。

財務指標	勘定科目
自己資本比率	純資産↑、総資産↓、負債↓
当座比率	当座資産↑、流動負債↓
債務償還年数	売上高↑、売上原価↓、販売費及び一般管理費↓、減価償却費↑、有利子負債↓など

売上を上げることはどの経営者の方も常日頃から心がけており、「そんなことは他人から言われなくても分かっているよ！」とお叱りを受けるかもしれません。しかし、これらの数値は会計処理、表示方法などを変えることにより選択の余地があります。

### おわりに

融資を受ける際の重要な判断材料となる決算書からその財務指標と改善ポイントについて概説を行いました。具体的な施策・詳細につきましては、別稿にて解説していきたいと思えます。

(担当：齋藤)